もろえオレンジカフェさくら

◇ 地域住民の自主活動の支援 ◇

【活動の概要】

認知症の方とそのご家族やご友人の方が気軽に立ち寄れる場となっています。また、認知症や介護保険制度に関する相談・説明等を施設職員がカフェ主催者からの要請時に対応しています。

【これまでの経過】

もろえオレンジカフェさくらの会場提供。(特別養護老人ホーム花小町もろえ　地域交流室)

【活動の効果】

福祉に関する些細な疑問にお答えしたり、地域の方が何に困っているのか、施設ができる事は何かを座談を通して交流や信頼関係を築くきっかけになっています。

【活動の課題】

平成２９年６月に始まったばかりの活動であるため、定着と活動の継続について。

金沢初の住民主体型 きょう開設

認知症カフェ 家族の支えに

「介護する家族の張り詰めた気持ちが少しでも楽になるように…」

そんな思いから地域住民が主体となって運営する認知症カフェ「もろえオレンジカフェさくら」が十日、金沢市内で初めて開設される。核家族化など家族構成が変化する中、支える家族にかかる不安やストレスは高まっており、支える「手」を増やすことで安全で安心できる地域づくりを目指す。

初開催に向けて運営の手順などを話し合う運営委員ら＝金沢市諸江町の諸江公民館で

「傾聴で気持ち 和らげたい」

「専門的な指導ができるわけではない。とにかく家族の話に耳を傾ける『傾聴』が大事」。カフェを立ち上げる諸江地区民生委員児童委員協議会の松野茂夫会長(六〇)は力を込める。市の四月現在の高齢化率は25・6％。諸江地区は20・1％で平均より低いが、二十年前に比べるとほぼ倍増した。

同会では認知症になっても昔から住み慣れた家で少しでも長く過ごせるような地域にしようと、二〇一三年から独自の年五回ほどの勉強会に取り組み、自分たちにできることを考えてきたという。

カフェは毎月第二土曜の開催。市内には行政の管轄で各地域の包括支援センターが運営する認知症カフェはあるが、平日開催が大半。今回のカフェは患者本人だけでなく家族の支援に重点を置いているため、動めなどがなく時間のとれる休日にしたという。諸江以外の住民の参加も歓迎しており、松野会長は「地元では話しにくいこともあると思う。土曜なら他地区からも来やすい」と話す。

運営を支えるのは、民生委員やまちぐるみ福祉活動推進員のほか、地域住民から募集したボランティア。カフェでは傾聴の時間のほか、各回で手遊びやマジック、紙芝居などの催しを準備する。カフェの看板やお菓子を入れるかわいらしい折り紙の小箱も手作り。カフェの長瀬美知子運営委員長(六〇)は「あったかい雰囲気で、楽しかった、来て良かったと思ってもらえるカフェにしたい」とほほ笑む。

十日のカフェは午後二～四時、同市諸江町中丁の特別養護老人ホーム「花小町もろえ」で。参加費一百円。(織田龍穂)

昴 すばる

きょうのイチオシ！

平成 29 年 6 月 10 日北陸中日新聞掲載

特別養護老人ホーム 花小町もろえ

運営法人：社会福祉法人花木蓮
住　　所：金沢市諸江町中丁 154-1
電　　話：076-256-1245
ＦＡＸ：076-256-1246